

若者と難民について考える ～多文化共生社会の実現に向けて～

今、世界ではミャンマーやアフガニスタンでの紛争による政情不安や気候変動による大規模災害などによって、大量の「難民」が発生する可能性が高まっています。また、私たちの住む日本でも外国人の入管施設の長期収容などが課題となっています。本シリーズでは、これから多文化共生社会の実現に向けて、難民を取り巻く世界と日本の課題について、若者たちと学び、考えます。

10 人や国の不平等をなくそう



16 平和と公正をすべての人に

参加費
無料オンライン
(Zoom)

第1回

高校生とワークショップで考える難民問題

(ワン・ワールド・フェスティバル for Youthと同時開催)

日時 2021年 12月 19日 (日) 13:20-14:45

講師 中尾秀一さん (アジア福祉教育財団難民事業本部関西支部長代行)

NGOの講師による講演とワークショップを通じて、高校生を中心とした若者と共に「知っているようで知らない世界の難民」について学び、自分事にしていきます。

第2回

外国人の入管施設の現状と課題

日時 2022年 1月 24日 (月) 18:00-20:00

講師 平野雄吾さん (共同通信エルサレム支局長)

※著書『ルポ入管—絶望の外国人収容施設』が2021年11月に城山三郎賞を受賞

外国人の入国管理局（入管）施設とはどのような施設なのか。そこでは何が行われているのか。入管施設の実情を取材・執筆しているジャーナリストを講師に、若者たちによるファシリテートで日本の課題を学び、考えます。

お申込み

URL／QRコードの申込みフォーム、またはチラシ下部の「お問合せ」よりお申込みください。お申込みのメールアドレスに後日ZoomのURLをお送りいたします。

<https://forms.gle/rxKjYzbobYiR7ab27>

主 催 CODE海外災害援助市民センター、CODE未来基金

共 催 近畿労働金庫、関西NGO協議会、
ワン・ワールド・フェスティバル for Youth運営委員会

後 援 神戸新聞社、生活協同組合コープこうべ

はたらくあなたへ 笑顔を届けに
R **近畿ろうきん**



お問合せ

CODE海外災害援助市民センター

〒652-0801 神戸市兵庫区中道通2-1-10

TEL: 078-578-7744 FAX: 078-574-0702 Email: info@code-jp.org

講師プロフィール

中尾秀一（アジア福祉教育財団 難民事業本部 関西支部長代行）



関西学院大学社会学部卒、神戸大学大学院国際協力研究科単位取得退学。神戸YMCAを経て、1996年より難民事業本部関西支部に勤務し、日本在住の難民（インドシナ難民、条約難民、第三国定住難民）の定住支援に従事。2002年より複数の大学で非常勤講師として平和、人権、国際協力等の講義を担当。

平野雄吾（共同通信エルサレム支局長）



1981年東京都生まれ。一橋大学大学院経済学研究科修了後、2006年共同通信記者。前橋、神戸、福島、仙台の各支社局、外信部、カイロ支局、特別報道室などを経て2020年8月からエルサレム支局長。「入管収容施設の実態を明らかにする一連の報道」で2019年平和・協同ジャーナリスト基金賞奨励賞を受賞。著書に『ルポ入管—絶望の外国人収容施設』（2021年第64回JCJ(日本ジャーナリスト会議)大賞受賞、2021年第8回城山三郎賞受賞）、共著に『労働再審②越境する労働と〈移民〉』、『東日本大震災復興への道—神戸からの提言 震災復興・原発震災提言シリーズ1』など。神戸支局（2009～11年）では、阪神大震災から15年たった街の復興状況などを取材した。

各団体のご紹介



近畿労働金庫

労働組合や生活協同組合の働く仲間が、お互いに助け合うために資金を出し合って作った非営利・協同組織の〈福祉金融機関〉です。



関西NGO協議会

主に関西に活動拠点をおくNGOが全国・世界のNGO/CSO同士のネットワークを形成し連帯を促進することで、それぞれの活動をより充実・発展させることを目的としたネットワーク型の国際協力NGOです。

ワン・ワールド・フェスティバル for Youth



高校生自身が国際社会の課題への理解を深め、国際協力やSDGsを身近に感じ、アクションするための国際協力フェスティバルです。関西NGO協議会と、高校生を中心とした運営委員会が共同主催しています。※本企画の第1回は、ワン・ワールド・フェスティバルfor Youthのプログラムの一つとして開催しますが、どなたでもご参加いただけます。

Webページ <https://owf-youth.com/index.html>

CODE海外災害援助市民センター

1995年の阪神・淡路大震災の時に世界から支援をいただいた恩返しに「困ったときはお互いさま」の精神で設立され、アジア・中南米を中心とした災害被災地で住宅再建や雇用創出などの復興支援を行っています。

CODE未来基金

次世代のNGOを担う若者を応援する基金です。これまでにフィリピン、ネパール、中国の被災地で若者たちが自らフィールドワークを企画・実施しました。現在は兵庫県丹波市での農業研修やコロナ困窮者への支援を行っています。